

紹介

ムーカージ 著「四億萬人に對する食料計畫」

“Food Planning for Four Hundred Millions” by
Radhakamal Mukerjee M. A., Ph. D. MacMillan
and Co., Limited, London. XVII + 267.

本書は印度隨一の人口學者ルクノウ（Lucknow）大學教授ムーカージ氏の近著である。題して「四億萬人に對する食料計畫」と云ふも、その内容は具體的なる食料計畫ありと云ふに非ずして、寧ろ過剰人口を調節するに非れば食料供給計畫も樹たないといふに歸する様に思はれる。且、食料問題は本書の内容の一部をなすもので本書の特色は人口問題全般に互つて論述せる所にある、故に本書は寧ろ「印度の人口問題」と云ふを適當と考ふるも、本文は原著の紹介なるが故に、本書の表題をそのまま譯出した。本文に紹介せんとする本書の内容は「印度の人口問題」である。

本書は一九三六年の印度人口會議及同會議の結果生れた人口問題研究所（Institute of Population Research）の調査研究の第一回の報告である。

人口の過剩

印度の人口に關する著書の根本的觀念は印度は人口過剰なりと云ふにある。著書は印度に於ける多くの禍の根源を人口の過剰に歸し、人口増加の

制限を實行するに非れば食料その他一切の生活安定の計を立つるを得ないと云ふ。歐洲に於てはマルサスの人口論は今や實際にその適用を見ず、それは時代遅れのものになつたが、印度に於ては今尚マルサス説が嚴然として行はれて居る。この事は印度に於て最古の古典たるウパニシャッドにも現れて居ると云ふ。ウパニシャッドに於ては食物を求むる衝動は死と同一視せられて居るが、解説者は、之食物を求むる人は他の人を食卓より突きつけてこゝに死の闘争が演ぜられる意味なりと云ふ（第一頁）。印度に於て古來人口の増加がマルサスの擧げた外部的原因に依つて殘酷にも抑制されたが、今や之を社會的に豫防しなければならぬと云ふのが本書全卷を通じての主旨である。

印度の人口過剰を説く前に印度の人口に關する過去の推定及最近の統計を擧げる。之に依れば左の如くである。（單位百萬人）

一六〇〇年	一〇〇（Morelandの推定）
一七五〇年	一三〇（Shirasの推定）
一八五〇年	一五〇（著書の推定）
一八七二年	二〇六（以下人口調査）
一八八一年	二五四
一八九一年	二八七
一九〇一年	二九四
一九一一年	三二五
一九二一年	三一九
一九三一年	三五三
一九三五年	三七七（概數）

而して著書は次の人口調査の行はるゝ一九四一年には印度の人口は四億萬人を超ゆること必定なりと云ふ。印度の面積は米國の半分にすぎざるに拘らず人口は三倍を超える。

印度の人口が過剰なる事を説明せんとする第一の標準は耕地と人口との割合である。之に關し米國のイースト(Boys)は人口一人當り耕地二エーカー半を要すと云つた。固より印度の如き暖熱の國に於ては土地は二毛作行はれて生産多く、人は氣候温暖の故にカロリーを消耗すること少ない。加ふるに印度人は外人よりも小さい。故に著書は印度については人口一人當り所要耕地一エーカーと推定した。それでも尙人口過剰なること次表の如くである。(彼は一人一英町の標準を印度についてのみ主張しておき乍ら之を他國にも適用した事は論理が正確でない又計算も不正確な所もあるが暫く原著に従ふ事とする)。

各國耕作地と人口との割合(第六頁)

人口 (百萬)	耕地 (百萬エーカー)	一人當り 耕地	人口過剰 係數(A)	人口過剰 係數(B)
日本	二二・三九	〇・三六	六・九四	二・八
支那	四五〇・〇	二〇・八〇	〇・四四	五・一
印度	三七五・〇	二九八・一	〇・七八	二・八
ロシア	一六五・〇	七〇〇・〇	四・二	〇・五九
米國	一二五・〇	四一三・二	三・三	〇・七七
カナダ	一〇・三	三〇〇・〇	二八・九	〇・〇八

人口過剰係數(A)はイーストの標準即一人二エーカー半としたる場合、同(B)は修正標準即ち一人一エーカーとしたる場合である。

右の表によれば日本の人口過剰が印度の夫より甚しい。然し日本は耕地の生産力が大であり、工業及貿易が大なるが故に實際上印度の方が人口過剰の甚しき事は著書も認めて居る。印度のかゝる耕地過少の原因及その弊害は本書全卷各所に繰り返し説かるゝ所であるが、過少耕地の弊害を一層大ならしめるものは印度に於ける、家畜の過剰である。著書の計算に依れ

ムーカージー著「四億萬人に對する食料計畫」

ば印度に於ては一平方哩につき五百頭の家畜が居て(第八頁)而もそれは能率が充分に擧げられない。經濟上の必要よりはヒンヅー教徒の宗教的感情に依つて飼はれて居る。牧草の不足は是等の獸類をして生氣無く耕作にも役立たず、乳を餘り出ない様な状態において居る。

人口過剰の結果農家の耕地は聯合州の調査によれば一戸當り必要最低限たる五エーカー以下のものが三十二%を占め残りの中五十二%は右最低限を上下して居る。斯くの如き過少農の結果は二毛作の減少となり收穫も減少したと云ふ。著書は之を以つてマルサスの收穫遞減の法則の作用したものと云つて居るが、寧ろ必要な肥料を施さずして搾取したるの意味であらう。(第十四頁)

人口と食料

印度に於ける人口の増加と耕作段別及食料の増加とを見るに左表の如く近年に於ては食料の増加は僅かに人口の増加に追從するにすぎない。

印度に於ける人口、耕地及食料指數(第十七及十八頁)

人口	全耕作地	食料耕地	全收穫	食料收穫
一九一〇乃至一九一四平均	一〇〇	一〇〇・〇	一〇〇	一〇〇
一九二一	一〇〇	一一三・四	一〇九	一二七
一九二三	一〇〇	一一三・四	一〇八・九	一二〇
一九二五	一〇一	一一五・〇	一〇八・五	一二七
一九二七	一〇二	一一四・六	一〇九・八	一二七
一九二九	一〇四	一一七・〇	一一一・六	一二三
一九三一	一一四	一一八・六	一一五・六	一二六
一九三三	一一八	一二〇・三	一二五・九	一二三
一九三四	一二〇	一二七・二	一二二・四	一二五

備考 こゝに一九二一年とは一九二二年より一九二三年への年度を謂ふ以下之に倣ふ

食料の生産指數が人口増加指數を多く超えざるのみならず、食料の質も下りつゝあると云ふ。即ち榮養分の多い米、小麦等の穀類の耕作衰へて榮養分の少い大麦其の他の穀類の生産が増したと云ふ。かくて、印度は穀物に不足し、その不足はビルマよりの輸入に依つて居る。ビルマは年々七八百萬噸の米を生産しその中三百五十萬噸は印度に輸出して居る。固より印度には尙未開墾の地があるが、然し著者は凡ての土地を開墾し盡しても印度の收容し得る人口の最大限度は四億四千七百萬と推定して居る。(第二十六頁) 尤も工業及商業に移行する事に依つて更に人口を收容し得ること日本と同様の可能性はある。然し印度は到底日本の如く外國輸出に迄伸びる事は出来ない、精々輸入防止にすぎないとしてこの點に關しては大體に於て悲觀的である。(第二十七頁)

飢饉と傳染病

人口過剩の弊害は民衆の生活程度の低下であり、多數の失業者の存在であり、乞食と盜賊との横行である。更に道德的には宿命觀であり、あきらめである。かゝる状態は當然人口の増加を阻止する。而して現時印度に於て人口増加を阻止するものは、第一に飢饉である。試みに十九世紀以後の大きな飢饉に就て見ると左の如く誠に驚くべきものがある。(第三十六頁)

年	代	飢饉回数	推定死亡者
一八〇〇乃至一八二五		五	一、〇〇〇、〇〇〇
一八二五——一八五〇		二	四〇〇、〇〇〇
一八五〇——一八七五		六	五、〇〇〇、〇〇〇
一八七五——一九〇〇		一八	二六、〇〇〇、〇〇〇
計		三二	三三、四〇〇、〇〇〇

最も近時灌溉及交通の發達、信用及救濟制度の普及、工業化等によつて飢饉の慘害は漸次減少した。然し飢饉は今日と雖も尙繰り返さるゝ性質を

有する。

飢饉に次いで人口増殖を抑制して居るものは傳染病である。近年に於けるその最大なるものは一九一八年より一九一九年へかけて流行した流行性感胃で羅病者一億二千五百萬、死亡者千二百萬と稱せられる。千九百一年より千九百三十年迄に於ける主たる傳染病の死亡者を見るに、前記流行性感胃の外コレラ千七十五萬、ペスト千二百五十萬(この數字は一八九六年本病發生以來の數字である) マラリヤ三千萬と云ふ誠に驚くべき數字である。最後のマラリヤは就ては羅病者年に五千萬盛んな年は一億に及び、死亡者百萬乃至二百萬に及ぶ。(第三十八頁)

此の外に印度の人口増加を抑制するものは榮養不良に基く高率なる死亡率、就中乳幼児の死亡、生理的經濟的社會的原因に依る女子の數の男子に比し少きこと、及墮胎等を擧げる事が出来る。要するにマルサスの擧げた最も悲惨なる方法に依つて人口の増殖を抑制して居るのが印度の現状である。これがため、平均壽命は頗る低く、諸外國に於ては近時五十五歳乃至六十歳、ニュージーランドの如きは六十二歳に達して居るに拘らず、印度の平均壽命は二十六歳餘である(第五十頁)

食料問題

印度人の所要食料は之を歐米人に比較するときは遙に少い。英國人の所要食料として、戦時の割當は五千カロリー、平時産業者は三千三百カロリーと稱せらるゝも、印度人は千六百五十乃至二千七百四十カロリーで足りるとし、日本人よりも尙少いとして居る。之氣候の暖いこと、體重の少いこと等を理由とする。然し斯く食料の所要量の少いことは同時に活力低く病氣にかゝり易く、仕事の能率の低い原因でもある。著者は印度に於ける各種食料の榮養分カロリー、ビタミン等の分析を掲げ食料の生産と榮養増

加の必要を絶叫して居るが、その結論のみを紹介するならば、第一にその最も重要視せるは豆類殊に大豆の栽培消費の増進である(第九十六頁)。

植物性蛋白質が動物性蛋白質よりも遙に經濟的で、東洋の如き、人口過剰の地では主として植物性に依るの他なきを述べ、歐洲に於て百エーカーの地に牧草を植へて牛を飼へば十五人分の熱量を得るにすぎないのに反し、馬鈴薯を植へれば四百二十人を養ふに足るとの説を引用して居る。(第百頁)。第二に家畜の飼養の制限を絶叫し、尠くとも家畜を三分の一に減ずべしと云つて居る。實際印度に於ける役にも立たない家畜の多い事は驚くべき事實らしい。印度に於ける家畜の数は二億一千四百二十萬頭で、實際役に立つものは六千萬頭を出てないと云ふ。かゝる無益の畜類を飼養するは主として宗教的感情によるもので、之がため人畜共に榮養不良に陥つて居る有様は一寸日本人には想像の出來ない所である。第三に印度農業は種子及肥料の改善、輪番耕作等を要するも著者はその前提として一戸當りの耕作段別を或程度迄大きくすること、是がためにも人口の減少を計る事の必要を認めて居る。(第百九十二頁以下)

印度の農業一エーカー當りの生産は之を他國に比して著しく低い、主穀物に就て見るに

一エーカー當りの生産(キントル) (第百九十頁)			
	印度	支那	日本
小 麥	八・一	九・七	一三・五
米	一六・五	二五・七	三〇・七

其の他の農作物に就ても印度の生産力は低い。著者はその原因を灌漑の不足、負債等に歸し、その根本を無智に歸するのは固より正しい。然し著書はその前提條件として一戸當りの耕地の擴大を必要とし、耕地の細分を

以て集約農業の最大の障害として居るのは(第百九十二頁)最も集約的なる細農を見慣れて居る日本人には一寸理解し得ざる所である。又生産の増加の方法として輪番耕作を説くが如きも(第百九十三頁)理解に苦しむ。肥料及種子の増産等に依る耕作の増産に就ては常に我日本を以つて範として居るのは固より當然である。

人口問題解決策

右に掲げた食料増産政策以外に於て著者は各種の印度の人口(過剰)問題解決策を検討して居る。その一は移民政策であるが、内地移住の餘地殆んどなしとし(第百二頁)海外移住の必要を述べ、英帝國は印度人のためにその領土を解放すべきことを要求してゐる(現時に於ては印度人の移民を容れる地は殆んどない)同時に海外移住の保護政策についても日本を範とせんことを主張して居る(第百三頁)。而してこの事はカナダ、濠洲、アフリカ等の開發にも有利であり、印度の購買力を増加して、英國工業の發展にも貢獻し、印度の食料生産を増加して、英帝國の食料供給をも豊かにする事を述べて居る。

人口問題解決策の其の二は工業化である。著者はこの點について最近の人口及産業統計を相當詳述に引用して居るが、その結論文を紹介すれば、工業保護政策の必要は充分に主張するも、之に依つて人口問題の解決を期することは至難と見て居る。蓋し最近に於ける工業の非常な發展と、勞働時間の短縮とも拘らず、工業勞働者数は寧ろ減少したし、國稅保護に依つて全輸入を防壓したとしても一人當四ルーピーにすぎない。唯生活程度の増進に依る出産率の減退と、工業の發達に伴ふ工業的農業の發達に希望をかけて居る。

著者の人口解決策の根本は人口制限である。その方法としては社會的風

俗習慣の變更である。幼年結婚の陋習及賣買婚の廢止はその第一である。幼年結婚は誠に印度の奇習であるが、之が爲に妊娠が多く「十八歳に達する前に七人の子の母となる」など云ふ事例も少くはない。而もかゝる早婚多産の結果は驚くべき高率の乳幼児死亡率と夫妻共に呼吸器その他の疾患による夭折である。固より多産は人民自身の苦痛とする所なるが故に、之が防止を目的とする自衛策が講ぜられるが、この自衛策たるや、最も幼稚なる墮胎と嬰兒殺しとである。

マホメット教の一夫多妻制度も亦著者の最も強く非難する所なるは云ふ迄もない。而して産兒制限思想普及の第一歩は宗教的思想の排除と、生活程度の向上とである。之に依つて出産率の自ら減退することは著者の信ずる所である。

人口構成の問題

印度全體としての人口過剰問題の外、印度内部に於ける種族及階級の調和のとれて居ないことも亦著者の憂ふる所である。即ちヒンヅーよりも文化の程度の低いマホメット教徒の人口増殖の激しい事、(一夫多妻がその主要原因) ヒンヅー中でも無智な階級が人口増殖率大なるに對して、上流階級は嚴格なる同階級婚と女子不足の故を以つて人口の増殖率は少いと云ふ。

例へばパンジヤブ地方に於ては過去五十年間にヒンヅーは六%の減少を示したに反し、モスレムは五〇%の増加を示した。聯合州に於ては文字を解する階級は過去三十年間に人口の減退を來した。然るに文盲の階級は何れも人口増加を示して居る。

モスレムの人口増加は云ふ迄も無く一夫多妻制度と、寡婦の再婚の許されるに依る。尙ヒンヅーもモスレムも幼児結婚の慣習そのものは大差はないが、實際の性生活に入る事はモスレムの方ではヒンヅーよりは遅いと云ふ。一夫多妻制は實際さまで廣く行はれて居るものではないが人口の過剰なる増加の原因なりとし、著者は經濟上道徳上より、法律に依る禁止を主張して居る。ヒンヅー殊に上流階級に於ける女子の不足は或は之を食物、氣候等に歸するものもあるが、著者は之を男子尊重女子輕視の慣習に歸し、女子の棄兒(飢饉等の場合に先づ女子を棄つること)、女子の嬰子殺し等に歸して居る。それにも増してヒンヅー上流階級の生産減退の理由は、結婚に關する社會規定の嚴格なことで、結婚してはならぬ階級、結婚せねばならぬ階級があり、更に寡婦——と云つても十四五歳乃至二十歳迄のものが頗る多い——は再婚が許されない、而もかゝる寡婦は全婦人の五分の一前後を占めて居るのであるから誠に大問題と云はねばならない。

然し印度の人口に關する陋風の最たるものは幼年結婚でその弊甚しく、著者は之を以つて民族的自殺であると迄極言して居る。(二百三十七頁)尙その外著者は優生的見地より等族結婚を廢して、異なる階級間の結婚をも提唱して居る。

結 語

本書を讀んで痛感することは我國は社會的迷信のないこと、教育の普及産業技術の進歩等の點では印度とは霄壤の差あり、今更乍ら東洋民族の指導者たるの誇を感じるが自然的物理的條件に於ては我國は寧ろ印度以上に人口過剰であると云ふ事である。この人口過剰の日本が飢饉に餓死者を出す事もなく、幼児死亡率も平均壽命も歐米と同一標準に向つて進みつつあり、今やこの狭き國土に局限せらるゝこと無く、人口過剰所か人口不足を訴へて、生めよ殖えよの聲が朝野にみなぎつて居ると云ふことは、誠に狂んなりと云ふべきであるが、我國も一步を誤れば印度同様否印度以上に人

口過剰に苦しむべき運命にある事を忘れてはならない。之を以つて之を見るに、人口問題は自然現象に非して人文現象であり、人の組織、努力、智能の相違は同一の自然状態にある國をして一は人口過剰を嘆ぜしめ、一は人口不足を呻たしめることがあることを思はしめる。(北岡)

アウエルハーン稿「高齢人口の

統計的研究」

Langlebigkeit als Massenerscheinung, von Dr. Jan

Auerhan (Prag), Allgemeines Statistisches Archiv

1940. H.3.

一

近代文明が死亡率、特に幼児死亡率を低下させ人間の平均壽命を延長したことは周知の事實であるが、併し平均壽命の延長は必ずしも人間が従来より長命になつたといふことを證明するわけではない。本論文はこの長壽命といふ特定の事象を統計的對象として取り扱つた稀しい論文の一つで、その集計方法の上にも一つの新機軸を見せてゐる。

蓋し従來この種の統計資料として興へられてゐるもの一つは普通に各國の人口調査に見られる年齢階級の集計だが、之が高齢者の特殊研究として不十分なことは高齢人口の總人口に對する比率が毎年の出生數や幼児

アウエルハーン稿「高齢人口の統計的研究」

死亡率、或は移出入民の多寡に左右されることの尠くない事を考へれば明白である。そこで個別的な家系調査によつて之を試みたものもあるが、^(註1)又特に最高齢者を對象として調査せるものもある。^(註2)然しこの最高齢者年齢申告が極めて不精密なものであることは周知のことで、本論論者はこの種のやり方にも信を措いてゐない。

(註1) L. Vaucher, La Longévité dans les familles, 1896 im XI Band des „Bulletin de l'Institut International de Statistique“ (註2) Misajkov, Les centenaires en Bulgaire, 1929. „Die über 90-jährigen Personen in Bayern am 16 Juni 1925,“ 1927 in der „Zeitschrift des bayerischen Statistischen Landesamtes.“

右の如き難點を回避する爲に本論論者の採擇する集計法は高齢人口の割合を特に二十四歳以上の成年人口に對して求めることで、之によつて論者は毎年の出生數と幼児死亡率の多少による影響を免がれ得るとしてをり、更に六十歳以上の總人口に對する八十歳及び九十歳以上の高齢人口比率をも算出することによつて高齢人口の實相を更に精密に分析するのみならず、また之によつて移出入人口の影響をも回避し得るとしてゐる。なほ論旨は最高齢者を凡て九十歳以上の部に集計することはこの種高齢者の年齢申告の不精密を回避する所以だといつてゐる。

二

調査範圍は舊チエッコ・スロバキア國の諸地方であるが、本集計法を紹介する意味で特にボヘミア地方に關する集計結果(實數を除く)を擧げてみると次の如くで、